

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077900084		
法人名	株式会社 アクロス九州		
事業所名	コスモピア大木	ユニット名	1F
所在地	福岡県三潁郡大木町絵下古賀284-1		
自己評価作成日	平成23年9月12日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月1日	評価結果確定日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な田園地帯に位置し、四季折々の草花が咲き、初夏には、かえるの合唱があちこちで聞こえ、秋には頭をたれた稲穂が実り、庭先には、季節の果物が実り、四季を通して安心感のある地域です。コスモピア大木も今年で11年目を向かえるグループホームです。利用者様の笑顔を私達の喜びとし、共に生活することを日々の目標にしています。入居者様一人ひとりが最期まで、その人らしく人生の継続をして頂くよう、また、利用者様の昨日と違うところを見逃さず、入居者様の望む暮らし作りを支援し、チームでケアにあたらせて頂いています。又、大浴場があり、庭の草木を眺め、季節を感じながらの入浴が楽しめます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コスモピア大木の周囲は田畑に囲まれ、四季の移り変わりを肌で感じる事が出来る環境である。また、敷地内でも畑を作っており、その季節の旬の野菜を楽しむことが出来る。旬のものを食することで、利用者の活性化に繋がるとの思いをもって、日々美味しい食事づくりに励んでいる。
利用者本人が、最期まで本人らしく生活できる場所となることを目指し、その方の中にある気持ちを最大限に引き出しながら、その気持ちに寄り添っていくことが出来るように心掛けて日々取り組んでいる。評価当日も、利用者や職員の賑やかな歌声や笑い声がリビングに響いており、おだやかに楽しく過ごされている様子を窺うことが出来た。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしくをモットーに、より家庭的に生活出来るよう、又、思いやりを持ち、福祉介護を通して、地域社会に信頼される事業を目指し、日々実践に取り組んでいます。	ホーム開設時に作成された理念は、地域社会との関係作りについて追記され、現在に至っている。朝礼時の唱和や、勉強会の中で理念に基づいたケアについて話し合いを行いながら、理念の共有に努めている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には、笑顔であいさつを心がけ、地域の行事には、積極的に参加し、また、畑の肥料を分けてもらったり、野菜を頂いたりしている。	地域や公民館で行われている行事（祇園祭や敬老会等）に参加したり、隣近所の方々と挨拶を交わしたり、収穫した野菜をいただいたりと、日常的に交流が行われている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを年2回配布し、地域とのコミュニケーション作りに役立っている。又ホーム便りには、「耳より情報」として、認知症介護に関する相談コーナーを設けたり、認知症予防に関するコーナーを設け地域に発信しています。今年、区長さんの協力で、回覧板で町内を回して頂きました。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、コスモピア大木の取組と運営報告、活動状況を報告し、地域の意見、アドバイスを頂き、協力してもらっている。	区長（民生委員と兼務）や役場職員、利用者の家族等が参加して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの運営状況や研修・行事の報告、また地域からの意見や要望を聞く機会としている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の事業所連絡会に積極的に参加し、管理者他、職員も参加し地域との連携を図っている。	地域包括支援センターの職員に対して、ホームの状況や空室情報を提供している。また、ケースワーカーとの連携も図っている。運営推進会議には、市町村の担当者の出席を得ている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、勉強会で取り上げ、職員全員の認識を深める努力をしている。又、やむおえない状況がある場合は、アセスメントを十分に行い、家族とも、相談し承諾を得ている。	年に1～2回、身体拘束についての勉強会を開催している。利用者の方々の豊かな感情表現から、日常の寄り添う支援を窺うことが出来ますが、現在、家族の希望による事例も含め、安全面への配慮のみを優先しているケアもみられる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、勉強会で取り上げ、些細なことでも、ご本人の苦痛につながらないように心がけている。	

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や資料の閲覧を通して、制度の必要性を理解し、いつでも対応できるようにしている。	定期的に勉強会を開催しており、制度についての理解を深めている。また、パンフレットも常備しており、質問等があればすぐに対応することが出来る。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者、担当者が本人・家族に十分説明し、理解、納得、同意をはかり、その後も随時相談に応じている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者・家族より意見・不満・苦情があった場合、迅速に対応し、反映できるよう努めている。	家族が面会に来られた際には声かけを行い、意見の聴取に努めている。また、直接言いくいことも勘案して、請求書を送付する際に、要望を記載することが出来るような用紙を同封している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案があった場合は、その都度、話し合いをし、解決するようにしている。年1回職員の自己評価を行い、事業所の意見・評価を書く欄を設けている。	勉強会を行っているが、その時に職員の意見や提案を聞くようにしている。職員もその機会には活発に意見を出し合っており、実際に出た意見を取り入れて、改善したこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを記入し、各自目標を揚げ、日々努力している。給与水準も勤続年数だけでなく個々の努力などを把握し査定している。労働日数及び、休日に関しても個々の希望に応じて対応している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、最も重要視するのは、「お年寄りが好きな方」年齢、性別は問いませんが明るく、元気な方を採用条件としています。個々の能力を発揮できいきいきとして働けるような環境作りや、社会参加、自己実現を図れるような場の提供をしている。	職員採用にあたっては、性別や年齢、資格等については特に制限しておらず、高齢者が好きな人、認知症に対する理解がある人を採用するようにしている。職員の休みの希望についても、なるべく希望に沿って休みが取れるようにシフトを組むようにしている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所は倫理法人会に所属し、朝礼時「職場の教養」を読み、感想を述べるなど、人権教育、啓発に努めている	毎朝の朝礼の時に「職場の教養」という冊子を職員が読み上げて、内容についての感想を述べるようにしている。そのことにより、自己啓発となり、職員間の連携を深める事にも繋がっている。	

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修や、セミナー等状況に応じた研修を受ける機会を設けている。コスモピア大木の独自の勉強会も毎月1回開催し、職員のスキルアップを目指している。			
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して、地域の同業者との交流を持ったり、勉強会を通してサービスの質の向上を図っている。			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人・家族に逢い本人の気持ちや不安、意向等を聞き、馴染みの関係作りに努めている。「らしさシート」を活用し、できるだけ本人理解の為の情報収集に努め、相手のペースに合わせ、安心して楽しく過ごして頂けるよう配慮している。			
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、家族が困っていること、不安・意向などを伺い、本人の生活歴や趣味、嗜好等を伺っている。			
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の思い、状況等を確認し、支援の提案をしながら、本人・家族との信頼関係を築き、必要なサービスにつなげるようにしている。			
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの感情を大切に、共に笑い、共に涙し、敬う心を忘れず接している。時には、個々でじっくりお話を聞いたり、話したりして、共に支えあい、共感を持って接し、入居者の皆様から学ばせてもらうことが、たくさんあります。			
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が「支援している、されている」という関係ではなく、家族の思いに寄り添いながら、本人と一緒に支える為に、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報共有に努めている。			
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人・友人等の家に遊びに行ったり、逢いに来てもらったりして、継続的な交流ができるよう働きかけている。	行きつけの馴染みの美容院を利用したり、近所の友人宅に遊びに行ったり等、これまでの関係性の継続に向けて、支援を行っている。		

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、心身の状態や気分、感情で、日々変化することがあるので、その時々々の心身の状況を見極めながら、配慮し共にケアし合いながらより良い関係を保てるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた場合、支援状況等を手渡すと共に、馴染みの職員が訪問したり、状況を伺ったりして、関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中に、思い・希望が含まれている言葉の端々から本人の思いを感じ、共感を持つ。もし困難な場合も勝手に判断したりしないよう心がけている。	普段の会話の中から思いや意向を汲み取ったり、それが困難な場合は家族にも協力を仰いで、今までの生活歴等を聞きながら、どのような思いがあるのかを探るようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人をよりよく知る為に「らしきシート」を活用し、情報の共有を図りながら、本人理解に努めている。又、本人・家族・ケアマネージャーと情報交換を行い、入居前の状況を伺っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り簿をもとに、職員間で情報交換を行い把握に努めている。個々の能力が発揮出来るような場面作りに視点を置き支援している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を参考にしながら、介護計画を立てている。サービス担当者会議等で、カンファレンスを行い、意見、アイデアを収集し、本人優先の介護計画の作成に取り組んでいる。	計画を作成する前には、必ずサービス担当者会議を開催し、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。またその計画については、毎月モニタリングを行い、変化があれば、その都度計画を見直すようにしている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、利用者の状況の変化は、個々の記録に記載し、重要なことは、申し送り簿に記載し、職員間の情報共有を徹底している。又、個別記録をもとに介護計画の見直し、評価に生かしている。		

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの行事へのボランティアの参加、市事業によるオムツ券の活用など、介護保険以外の情報等も家族にお伝えしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されたかかりつけ医を最優先しているが、現在、提携医に往診等で対応してもらっている。緊急時、専門医の受診、入院が必要な場合、提携医より紹介状を書いてもらって対応している。	入居時にそれぞれの希望を確認した上で、元々のかかりつけ医を受診する人もいれば、協力医の往診を受けている人もおり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、スタッフが協働しながら、入居者の健康管理に努めている。利用者の些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。又、変化に気づいたことがあれば、看護師、スタッフが、主治医と連携を取り、適切な医療につなげている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて、入院先病院と連携をとり、少しでも本人が混乱されないよう情報提供を行っている。管理者、スタッフも出来る限り本人のところへ向かい、不安が少しでも回復できるよう努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人、家族の意思・意向を確認し、説明している。その後、必要時、提携医、看護師、家族、管理者、スタッフを交え、事業所で出来ることを十分に説明し、医師、看護師との連携を含めチームでの支援に取り組んでいる。	提携医との協力体制が取れており、24時間対応できる環境となっている。重度化及び終末期の指針については、入居時に説明を行うようになっているが、実際のそのような状態になった時には、再度関係者を含めた上で話し合いを行い、支援を行うようになっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、勉強会で取り上げたり、マニュアルを見たりと事故発生時に備え、初期対応については、実践力を身に付けている。		

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで、年2回、昼間想定、夜間想定での訓練をしている。又、毎月20日を防火デーとして、自主訓練をしている。運営推進会議を通して、町内の方に協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導のもと、年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、毎月、防火デーを設定しており、手順の再確認を行ったり、初期消火の訓練等も行っている。地域の方々への協力についても、運営推進会議で話をしているところである。	毎月、自主訓練を重ねる等、災害対策への意識も高く、運営推進会議を通じた働きかけが、地域との協力体制作りにも活かされる事を期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を常に念頭におき、排泄介助、誘導の際、さりげない言葉かけや対応に配慮し、本人のプライバシーを損ねないようにしている。	プライバシーについては、勉強会を行っており、日頃から充分注意を払って対応するようにしている。利用者のファイル等についても、事務所内の棚の中に保存するようにしており、外来者から見えないようになっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや対応に工夫しながら、本人が自己決定できるよう働きかけ、本人の思いや希望が表せるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その場、その場で本人の希望を聞きだす声かけ・場面作りに努めているが、認知症という病気の為、入居者の希望・思いを引き出すには、不十分さを感じている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットに来てもらった際、本人の希望を聞き、好きな髪形にしてもらっている。おしゃれをする力は衰えているが、その感情はなくなってしまっているわけではないことを理解し、本人の好みの色、柄、雰囲気把握し、少しでもおしゃれが出来るよう支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に本人の好みや力にあわせて、できる事をスタッフと一緒にしている。しかし、だんだんと認知症の進行、身体レベル低下に伴い、できることが少なくなってきている。又、調理する音、臭い等で五感を刺激し食欲をそそるようにしている	少しずつ重度化が進む中で、食事作りのプロセスへの参加も少なくなってきているが、出来る限り手伝ってもらえるように働きかけている。また、畑で収穫した野菜を調理することも多く、旬のものを楽しんでもらえるような献立を作成している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分については、一人ひとりの体調や摂取状態に応じて提供している。特に10時、3時のお茶の時間は、お茶のほか、好みの水分を摂取していただいている。		

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、訪問歯科医の指導により、朝、夕食後行っている。気がけて声かけ等を行い、一人ひとりの習慣にあわせて支援に努めている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンをバイタル表の排尿表、排便チェック表を用いて把握に努め、時間帯や習慣によって声かけをすることで、失敗を減らし、オムツに頼らない支援を心がけている。	それぞれの排泄パターンを把握しており、それに合わせて誘導を行い、失敗がないように気をつけている。オムツをしていても、トイレに誘導するようにしており、自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然排便になるよう運動を心がけたり、水分摂取を促すことで便秘の予防に努めている。便秘になられた場合でも、個人に合わせた対応を心がけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大浴場があり、曜日を決めて入浴して頂いている。温泉気分で楽しみにしている。入浴を嫌がられる方にも、気分が動くような声かけを心がけている。	週2回は入浴してもらうようにしている。大浴場があるため、仲のよい人同士で複数で入ることを楽しみにしている利用者もいる。入浴を拒否する利用者もいるが、声かけの方法等を工夫しながら対応するようにしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとり睡眠の時間帯が異なることを十分理解した上で、ケアにあたっている。夜、睡眠中の場合、プライバシーを考慮した上で睡眠を脅かさないよう努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病名と服薬管理は看護師、主治医、薬剤師と連携を図り、大まかなことは理解しているが、完全とはいええない。服薬の変更に関しては、申し送り等で対応している。又、利用者の薬の処方、効能、副作用に関しては個人のファイルにいれ、全職員にわかるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの能力に応じた力を発揮できるような場面作りや支援を行っている。本人の好きなこと、楽しみを通して、毎日過ごして頂けるよう努めている。		

福岡県 コスモピア大木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、散歩したいといわれる方には、共に時間を作り、気候のよい時は、外出の声かけをし、散歩に出かけたり、気分転換のきっかけとしている。	気候が良くて天気がいい日は、近所に散歩に出掛けたり、ホームの外で日向ぼっこをしたりと、少しでも外に出る時間を確保するようにしている。また季節の花を見に行くことも多く、四季折々の風情を、肌で感じてもらえるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払うことが出来る方には、自分で金銭管理をして頂き、出来ない方は、希望を聞いて立て替えている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に家族へ手紙を書けるよう支援している。書けない方は、何かひとつでも書いて家族とのコミュニケーションが取れるよう支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺が田園地帯のため、適度な静けさがある。夏の強い日差しには、スタレをかけ、工夫している。共用空間は、季節の花などで自分の家だという意識を高めてもらうようにしている。玄関の花壇には、季節の花を植え、入居者、スタッフと手入れをしている。	共用部分にある家具は家庭的なもので揃えられており、実際に自宅にいるような感覚で過ごせる空間づくりがなされている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、ソファで昼寝をしたり、それぞれに好きな場所で、それぞれの思い出を語り合ったりできるスペースを活用している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人の馴染みのもの、使い慣れたものを持ってきて頂いて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	仏壇やタンス等、それぞれの方が自宅で使い慣れたものを自由に持ち込んでおり、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の活動意欲や動きがスムーズに進むよう、状況に合わせ、環境整備に努めている。又、利用者の状況に合わせ、個人のわかる力を見極め、目印をつけたり、物の配置に配慮している。		